

商業の動き

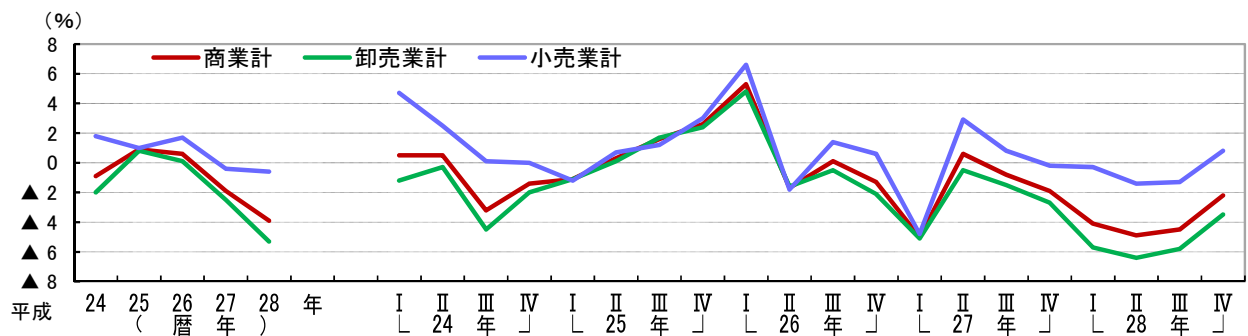
第 1 7 2 号
平成 29 年 3 月
経済産業省大臣官房
調査統計グループ



毎月のご報告ありがとうございます。

平成 28 年の商業販売額は、前年比▲ 3.9%と 2 年連続の減少となりました。卸売業は同▲ 5.3%の減少、小売業も同▲ 0.6%の減少となり、ともに 2 年連続の減少となりました。(第 1 図)

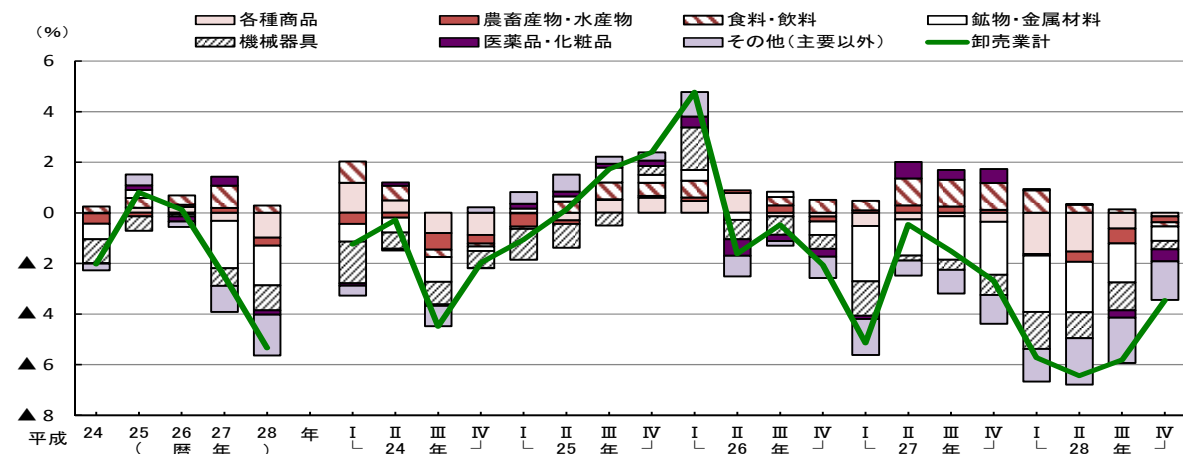
第 1 図 商業販売額の推移(前年(同期)比)



○卸売業販売額の動向○

平成 28 年の卸売業販売額をみますと、鉱物・金属材料卸売業は、原油及び石油・石炭製品の価格低下や輸入減などにより減少、各種商品卸売業（総合商社など）は、原油及び液化天然ガスの輸入や国内向け減などにより減少、機械器具卸売業は、半導体等電子部品の輸出入や通信機の輸入減などにより電気機械器具が減少、金属加工機械及び原動機等の輸出減などにより産業機械器具が減少、自動車輸出減などにより減少となりました。一方、食料・飲料卸売業は、小売業及び外食産業向け増や飲料の取扱い増などにより増加となりました。(第 2 図)

第 2 図 主要卸売業の販売額前年(同期)比寄与度推移



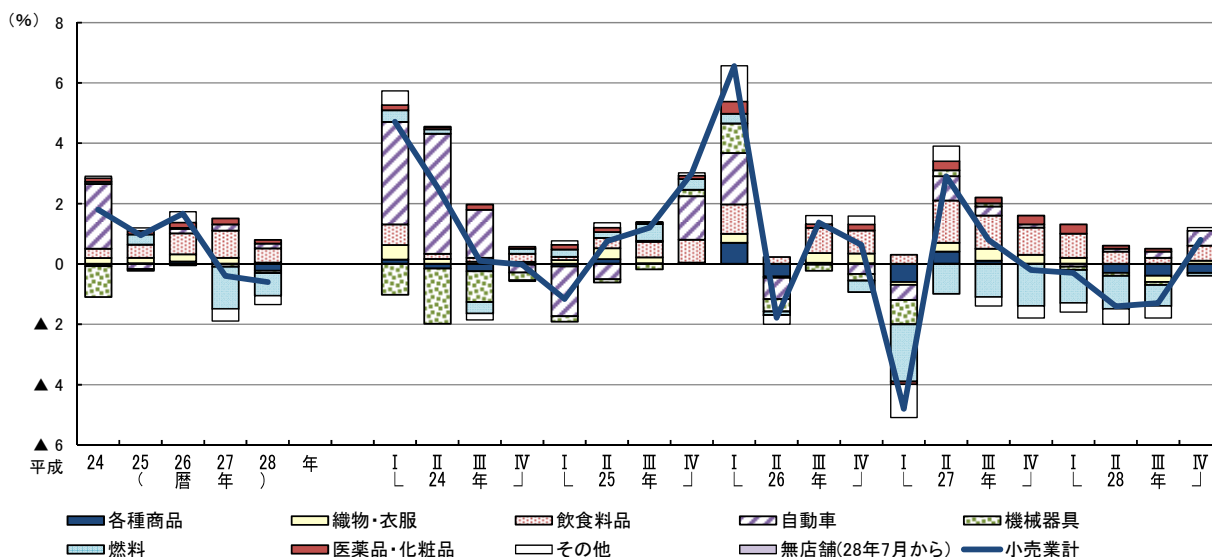
☆☆大規模卸売店の動向☆☆

平成 28 年の大規模卸売店の販売額は、石油・石炭が原油、石油製品の国内向け減、液化天然ガスの輸入減などにより減少、鉄鋼が鋼管、鋼板の輸出及び国内向け減などにより減少したことなどから、前年比▲ 5.9%と 2 年連続の減少となりました。

○小売業販売額の動向○

平成28年の小売業販売額をみますと、燃料小売業は、石油製品の価格低下などにより減少、各種商品小売業（百貨店・総合スーパーなど）は、天候不順の影響から婦人服を中心とした衣料品などの動きが鈍かったことなどにより減少となりました。一方、飲食料品小売業は、畜産品や総菜に動きがみられたことに加え、野菜の相場高やコンビニエンスストアの好調などにより増加、自動車小売業は新型車効果により普通車などが好調だったことに加え、輸入車も好調だったことなどにより増加となりました。（第3図）

第3図 小売業業種別の販売額前年(同期)比寄与度推移



注：27年7月より無店舗小売業を特掲して表章している。

☆☆業種別の動向☆☆



① 各種商品小売業（百貨店、総合スーパーなど）は、天候不順の影響から婦人服を中心とした衣料品などの動きが鈍かったことなどにより、前年比▲2.5%と2年連続の減少となりました。

② 織物・衣服・身の回り品小売業は、天候不順の影響により秋物商材に伸び悩みがみられたものの、春前半からの気温高や秋後半からの低温により季節商材に動きがみられたことなどにより、前年比0.5%と7年連続の増加となりました。

③ 飲食料品小売業は、畜産品や総菜に動きがみられたことに加え、野菜の相場高やコンビニエンスストアの好調などにより、前年比1.5%と10年連続の増加となりました。

④ 自動車小売業は、新型車効果により、普通車などが好調だったことに加え、輸入車も好調だったことなどにより、前年比1.4%と3年連続の増加となりました。

⑤ 機械器具小売業は、冷蔵庫や洗濯機、エアコンなどに動きがみられたものの、パソコンなどが不調だったことなどにより、前年比▲1.9%と2年連続の減少となりました。

⑥ 燃料小売業は、石油製品の価格低下などにより、前年比▲8.8%と3年連続の減少となりました。

⑦ 医薬品・化粧品小売業は、ドラッグストアの堅調及び化粧品が好調だったことなどにより、前年比1.9%と5年連続の増加となりました。

⑧ その他小売業は、天候不順の影響から、園芸・エクステリアなどが不調だったことなどにより、前年比▲0.0%の横ばいとなりました。

◎百貨店・スーパーの動向◎

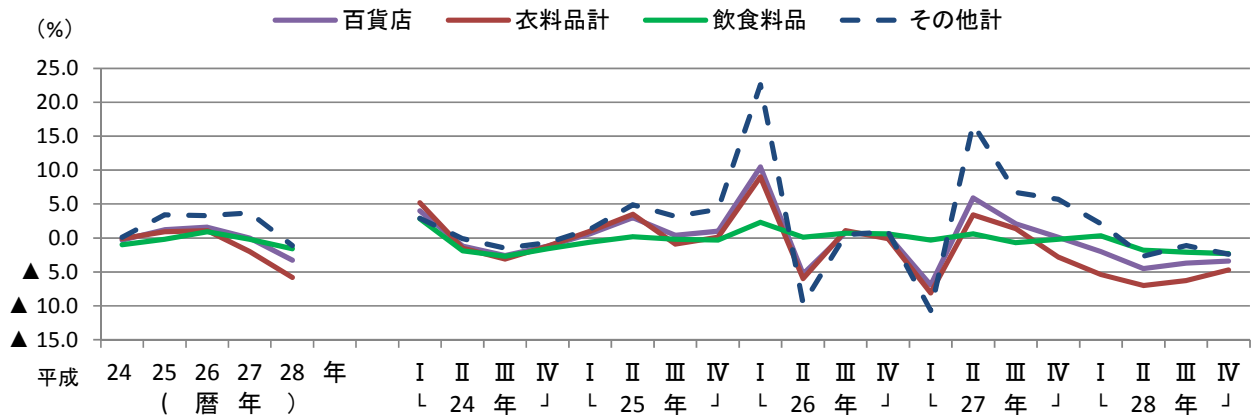
平成28年の百貨店・スーパー合計の販売額は、前年比▲0.4%と4年ぶりの減少となりました。なお、既存店ベースでみると、同▲0.9%と3年ぶりの減少となりました。



① 百貨店

百貨店は、化粧品が好調だったものの、天候不順の影響から婦人服を中心とした衣料品などの動きが鈍かったことなどにより前年比▲3.3%と2年連続の減少となりました。なお、既存店ベースでみると、同▲2.9%と5年ぶりの減少となりました。（第4図）

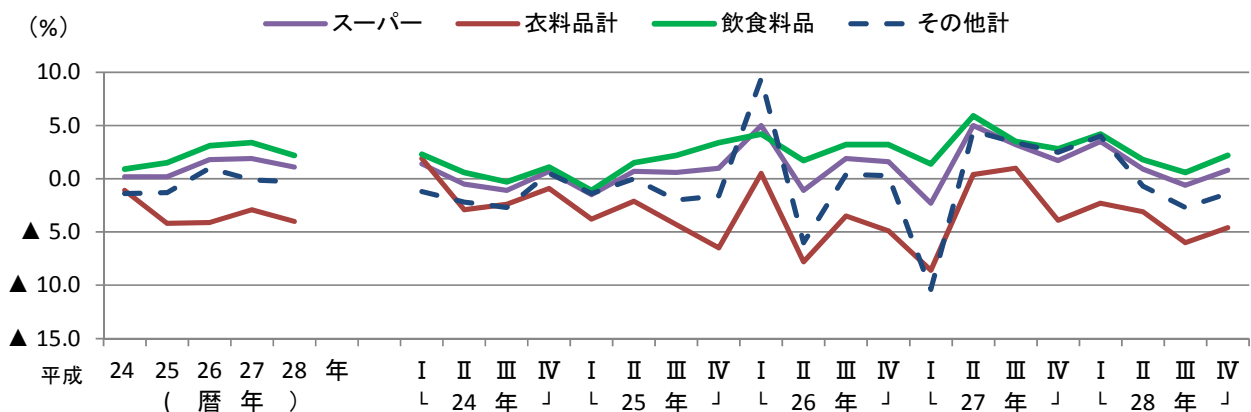
第4図 百貨店販売額の推移(前年(同期)比)



② スーパー

スーパーは、天候不順の影響から季節商材の動きが鈍かったものの、新店効果に加え、主力の飲食料品が総菜や畜産品などを中心に堅調だったこと、秋以降の野菜の相場高などにより、前年比1.1%と6年連続の増加となりました。なお、既存店ベースでみると、同0.1%と3年連続の増加となりました。（第5図）

第5図 スーパー販売額の推移(前年(同期)比)

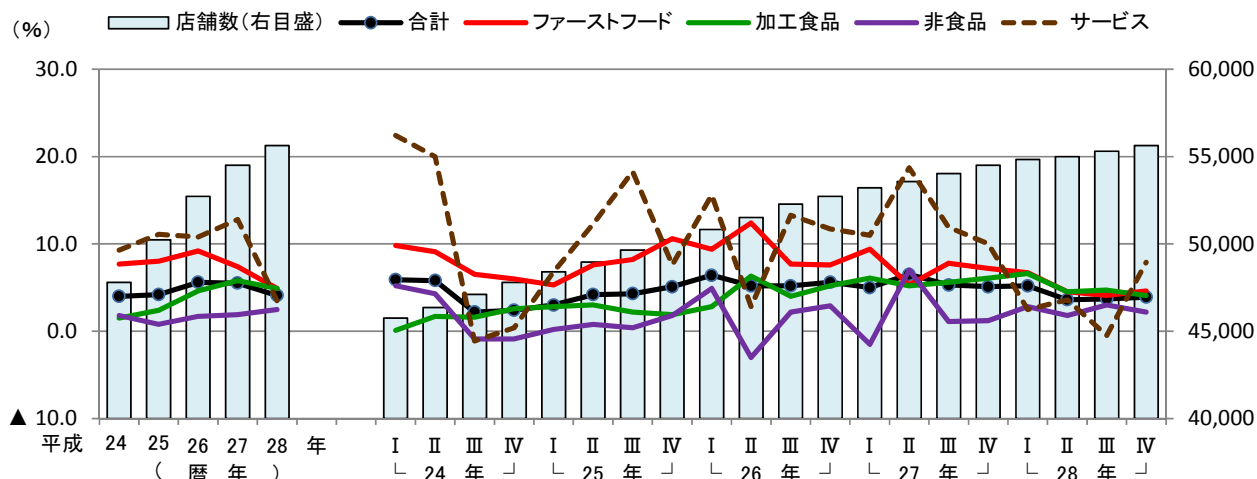


◎コンビニエンスストアの動向◎

平成28年のコンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高の合計は、ファーストフード及び日配食品の好調などにより、前年比4.1%と18年連続の増加となりました。商品別にみると、ファーストフード及び日配食品は、ファーストフード、調理パン、調理麺などが好調だったことにより、同4.9%と7年連続の増加となりました。加工食品は、冷凍食品、アイスクリーム、ソフトドリンクなどが好調だったことなどから、同4.9%と7年連続の増加となりました。非食品は、雑誌、書籍が引き続き不調だったものの、日用品などが好調だったことなどにより、同2.5%と18年連続の増加となりました。サービス売上高は、各種チケットなどの取扱い

増やプリペイドカードの好調により、同3.4%と10年連続の増加となりました。(第6図)

第6図 コンビニエンスストアの店舗数と販売額の推移(前年(同期)比)



○家電大型専門店の動向○

平成28年の家電大型専門店の販売額は、生活家電が堅調だったものの、情報家電が不調だったことなどにより、前年比▲1.5%と2年連続の減少となりました。(第7図)

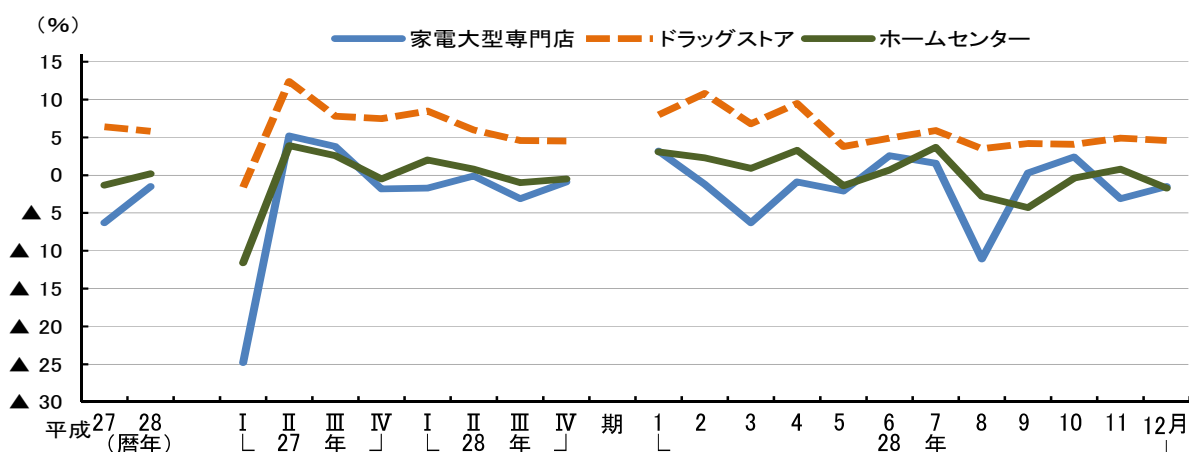
○ドラッグストアの動向○

平成28年のドラッグストアの販売額は、新店効果に加え、食品、家庭用品・日用品・ペット用品などが好調だったことなどにより、前年比5.8%と2年連続の増加となりました。(第7図)

○ホームセンターの動向○

平成28年のホームセンターの販売額は、天候不順の影響からインテリアや園芸・エクステリアなどが低調だったものの、DIY用具・素材や家庭用品・日用品などが堅調だったことなどにより、前年比0.2%の増加となりました。(第7図)

第7図 家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンターの販売額推移(前年同期(月)比)



商業動態統計調査にご理解いただきましてありがとうございます。
「商業の動き」については、原則年1回(毎年3月末)、12月分の確報数値を基に発行しております。この「商業の動き」は各種統計調査の結果とともに、下記のホームページでもご覧いただけます。

なお、この資料の内容についてご質問等がございましたら、
経済産業省 大臣官房調査統計グループ サービス動態統計室 商業動態統計班
(電話03-3501-1511(代表)内線2898~2899)までご連絡ください。
経済産業省統計ホームページ : <http://www.meti.go.jp/statistics/index.html>



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。